

# 日本文学に謳われた

## 「葡萄樹の汁滴る邑」高浜

高浜の町は葡萄で掩はれて居る、家毎に棚がある、棚なき家は  
家根に匍はす、それを見て南の海の島らしい感じがした。  
(『五足の靴』より)

わが佳耦よ、鐘きこゆ、野に下りて  
葡萄樹の汁滴る邑を過ぎ、  
いざさらば、ペアテルの黒き袈裟  
はや朝の看経はて、しづしづと  
見えがくれ棕櫚の葉に消ゆるまで  
(北原白秋「角を吹け」『天草雑歌』より)

葡萄の棚と無花果の  
熱きくゆりに島少女  
牛ひきかよふ窓のそと、  
「ペアテルさんは何処に居る。」

薫濃き葡萄の酒は  
玻璃の壺に盛るべく、  
もたらしし麝香の膺は  
汝が肌の百合に染めてむ。  
(北原白秋「ただ秘めよ」より)



### 紀行文『五足の靴』と高浜ぶどう

北原白秋、木下杢太郎、平野万里、与謝野鉄幹、吉井勇…  
日本近代文学史上に名作を残す文学者たち5人は、若き日、九州を旅し、紀行文「五足の靴」を著しました。一行は、天草のキリシタン信仰の中心だった大江天主堂のガルニエ神父と会うことを楽しみに天草町を訪問。5人が目にした天草町は、異国情緒豊かなぶどうの町でした。

配布のお申込みお問い合わせは

高浜地区振興会ぶどう班 TEL:42-1125  
受付時間8:30~17:15 (土日祝祭日を除く)